

私に影響を与えた 1冊



聖書

上石高生

私に影響を与えた1冊——「聖書」

欧米人をどうやって理解すべきか？ それ以上に世界ナンバーワンのベストセラー本に興味がある。

神との関係、そして厄介なる者について

神が最初に造った生物は魚であり、人は爬虫類の次、最後に造られた。厳密に言えば、最後に神が造ったのが女である。これが蛇（悪魔）に騙されて善悪を知る木の実を食べたことで蛇と女は神と敵対関係となる。男は女から与えられたことで食べてしまったのだから、それが善悪を知る木の実であることを知らなかったのだ。

こうして人は、罪の意識による羞恥に目覚め、さらに男も罰として女を支配しなければならなくなる。

いつの世も女は悪魔的なものから騙され、男は女を信じるからこそ騙され、とばかりを受けるということを繰り返す。

現代でも女は占い師や霊能力者、偽預言者の言葉に騙されるので創世記以来、いっこうに変わっていないということになる。

占い師や霊能力者、偽預言者などは『イザヤの預言』では、靈的に盲目にされ、災いが下り、突然、破滅がやって来て、わらのように火で焼き滅ぼされる存在であり、最後には悪魔と獣と一緒に永遠の恐るべき苦しみの中に投げ込まれるのである。

女も神と敵対関係とは言っても、男の支配の下にある、ということで悪魔とは区別されている。

『ヨハネが書いた第2の手紙』では、「父なる神から受けた戒めどおり、真理に従って生活せよ」と婦人に言い聞かせている。

ユングもまた女性の無意識人格アニムスは内なる未発達のロゴスと言っている。ロゴスとは『ヨハネが書いたイエス・キリストの福音』では「人間が歩む道を照らす光に他ならない」である。これこそ父の言葉「罪を犯してはならない」や、「悔い改めよ」である。つまり未発達のロゴスとは、娘に対する父親の心配に他ならない。娘は無意識にも内なるロゴスを感じるからこそ罪の意識に脅えるのである。

ロゴス——この神の言葉が、父なるものの真理。そして未発達のロゴスとは、嘘に惑わされ、悪を倣（なら）うことなのである。

男はこのような理由で未来永劫、この厄介なる者の面倒を見続けなければならないのだ。つまり結婚は男にとって任務なのである。

とは言っても、神は男に合う助ける者を造ったのだから、それが相応しいことは言うまでも

ない。

また、男が女を支配するとは言っても、それは利益の分配でもあり、分け与えられないのなら
できるはずはない。

そんな支配という名の結婚は、正しい理解のために言葉を換えるなら『監督』のことである。
名監督に当たれば、なでしこもワールドカップ優勝する。まさにこれは初期キリスト教の職制名
なのだ。

『パウロが書いたコロサイ教会への手紙 3章』では、愛は完全さをもたらし「キリストの平和
にあなたがたの心を支配させなさい」とし、二人が1つに結ばれるのも平和のためと書いている。

つまり、愛し合うことは平和をもたらすのであり、そのために人は命じられているのだ。

互いに愛し合う者に神は宿り、神の愛が私たちのうちに完成するのは平和であり、だから愛の
あるところに恐れはなく、完全な愛は恐れを取り除くのである。平和こそキリストの象徴なのだ
。

現代でも、がんを宣告され、余命わずかと診断された女性が、それでも愛する人と結婚する
のも、完全な愛のうちに、死の恐れを取り除くためであり、1つに完全なるものとして切り離せない
存在になるためである。そのために、憐れみ、寛容、許し合うのである。平安を得るために。

羞恥に目覚めた人は無知を克服しようと努力する。

そして21世紀において科学が自然現象を解明するほど、神が存在するところはどんどん狭まっ
ていく。これが「隙間の神」である。三位一体での「父」とは、自然を司る神である。

贖宥状（しょくゆうじょう:免罪符）批判という宗教改革から、すさまじい処刑や戦いが繰り返
されたのは、誰もが改革の結果を予測できなかったからの混乱に他ならない。

科学の進歩が神の恵みという価値を薄れさすとき、幻想に取って代わった科学者のメッセー
ジが、その結末を予測するほど絶望的な恐れを感じさせる。もはや黙示録を読むまでもない。

結婚してから離婚する割合は30%、50歳時に一度も結婚をしたことがない人の割合は20.1%。
およそ5人に1人は結婚せず、結婚しても3人に1人は離婚するという。つまり、日本人の半数以上
は独身となる。

まさに愛のない不完全な者に孤独な恐れがある。相手を許さず、追及し、責め、争った結果の
離婚と、心が狭く、利己的な結果の独身は、満たされないままに一生を終える。

また、嘘に惑わされ、悪を倣った女も、恵みと平安を得られず「ついに誰にも守ってもらえ
なかった」と思う。これでは女の個人責任ではなく、男がその任務を果たしてないということ
であり、だからこそ女はいつの世も「男が悪い」と言うのである。全ては神が命じた男の責任だか
らである。